

第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成25年11月21日(木)

学 級 1年B組(男子12名 女子8名 計20名)

授業者 教諭 新沼 健

1 単元名(教材名)

「竹取物語の面白さを紹介しよう」(光村:「蓬莱の玉の枝」)

2 単元について

(1) 教材観

「蓬莱の玉の枝」(『竹取物語』)は本格的な古典の入門単元として中学校1年生の教科書に掲載されている。かぐや姫の神秘的な誕生、難題に挑む貴公子の姿、富士山の由来などが描かれ、おとぎ話の「かぐや姫」を知っている生徒達にとっても、興味を持って読める教材である。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(1)アの(ア)には、「文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること」とある。

本教材では、『竹取物語』の面白さはどこにあるのかを考えながら読むことにより、

- ①古典に登場する人物の言動などに表れる書き手のものの見方や考え方をとらえながら古典に親しむ
- ②古典を繰り返し読むことで、古典特有のリズムに気づく

ことができるようにしたい。

その際、『竹取物語』の面白さを友達に紹介する」という言語活動を通して交流することにより、生徒のものの見方や考え方を広げることができると考えた。「読むこと」の指導事項オ「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の見方や考え方を広くすること」の達成も可能と考えられる。

補助教材として、「中納言石上麻呂足の難題」の話を提示する。「中納言石上麻呂足の難題」の話は、中納言が難題に取り組む姿、難題に取り組み、けがをした中納言に同情するかぐや姫の姿などが描かれており、生徒がかぐや姫や中納言の言動に寄り添いながら、様々な場面に目を向け、共感したり疑問に思ったり、批判したりするのに適した教材であると考えた。

(2) 生徒観

古典については、小学校5年生で「竹取物語」の一部を学習しており、今回さらに詳しく「竹取物語」を学習することで、古典に対する興味関心を深めることは可能と思われる。

これまでの「星の花が降るころに」、「大人になれなかったと弟たちに……」の学習を通して、読み取った内容について自分の考えを持つことや、それをグループ内に発表することに抵抗なく取り組むことができるようになってきた。

ただ、目的をもって教材全文を通して読み、そこから学んだことをまとめたり、まとめたことをグループ内で分かりやすく発表したりすることには慣れていない。そこで、本単元を通し、目的意識を持ってテキストを読み、そこで学んだことをわかりやすく説明できる(発表できる)力の育成を目指したい。

(3) 指導観

「竹取物語の面白さ」を考えるという学習活動を中心におき、全部を通して読み、「面白さ」について自分の考えをまとめさせる。「面白さ」として生徒にとらえさせる観点を次の2つに絞る。

①内容の面白さ

古典に描かれているものの見方や考え方に共感すること、疑問に思うこと、批判することを挙げる。

②表現の面白さ

現代にはない古典独特のリズムが感じられる表現を挙げる。

面白さを伝える場合は、教科書の本文や並行読書を通して読んだテキスト(教師が提示)の文章を引用して根拠とさせる。

次に、その面白さの交流をグループ内で行うが、交流までの流れは以下の通りである。

- ①教師が提示したテキストの中から、上に挙げた2つの観点で面白さを見つける。
- ②発表原稿を準備する。(ただし、メモ程度。原稿の丸読みは認めない。)
- ③分かりやすく説明できるようフリップを準備する。
- ④グループ内で発表し交流する。

- ・聞き手は、自分の考えにはなかった内容や聞いて学んだことをメモする。
- ・グループ内で学んだことなどを交流する。
- ・交流を通して学んだことをまとめる。

そして、単元の終末では、本単元の学習について振り返らせる。

3 単元の目標

- (1) 竹取物語の内容や表現に関心をもち、進んで音読したり面白さを紹介したりしようとする。
- (2) 竹取物語に描かれているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったり批判したりするなどし、自分の考えを広げる。
- (3) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、竹取物語を音読して、古典独特のリズムや古典の世界を味わう。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①竹取物語の表現に関心をもち、工夫して音読しようとしている。 ②竹取物語の面白さを進んで紹介しようとしている。	①竹取物語に描かれているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったり批判したりするなどし、自分の考えを広げている。	①文語のきまりや訓読の仕方を知り、竹取物語を音読して、古典独特のリズムを味わっている。

5 単元の指導と評価の計画（5時間）

時	○ねらい ・学習活動	評価規準	評価方法
1	○「竹取物語」の学習の見通しをもつ。 ・教師自作のモデルを提示し、学習の見通しをもつ。 ・教科書教材「蓬莱の玉の枝」を音読する。 ・並行読書する補助テキストを確認し、並行読書する。 (並行読書は、第1時～第4時)	ア①	観察 学習見通しプリントへの記入
2	○古典独特のリズムに着目し、表現の面白さを見つける。 ・教科書教材「蓬莱の玉の枝」を音読しながら、古典独特のリズムとなっている部分を見つける。 ・グループで交流する。 ・表現の面白さについてまとめる。 ・補助教材を音読する。	ア① ウ①	観察 ノートへの記入
3	○内容面に着目しながら、「蓬莱の玉の枝」の面白さを見つける。 ・ものの見方や考え方について共感したり、疑問をもったり批判したりしながら面白さを見つけ、ノートにまとめる。 ・グループで交流する。 ・内容の面白さについてまとめる。 ・補助教材を音読する。	ア② イ①	観察 ノートへの記入
4	○補助教材の面白さを紹介する準備を行う。 ・補助教材を読み直し、2つの観点から面白さを見つける。 ・発表に向けたメモを作る。 ・発表用のフリップを作る。 ・発表の練習をする。	ア② イ① ウ①	観察 フリップ 発表メモ
5 本 時	○4人グループ内で、自分が発見した面白さを紹介し、自分の考えを広げる。 ・発表に向けた準備を行う。 ・グループ内で発表する。 ・交流を通して学んだことや気づいたことについてメモし伝え合う。 ・竹取物語のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめ、本単元の振り返りをする。	ア② イ①	観察 学習記録用紙

6 本時の指導

(1) 本時の目標と評価規準

観点	目標	A 「十分満足できる」	B 「おおむね満足できる」	C 「具体的な対応・手だて」
関心 意欲 態度	○竹取物語の面白さを進んで紹介しようとしている。	聞き手の反応を確かめ、間や強調といったことにも気をつけ、分かりやすさも追求しながら紹介しようとしている。	聞き手の反応も確かめながら、面白さを紹介しようとしている。	面白さ2つについて必ず触れるよう、練習時間を確保する中で支援する。
読む 能力	◎友達の発表を聞き、竹取物語の面白さについて自分の考えを広げることができる。	グループ内での交流を通し、竹取物語のものの見方や考え方について、友達の考えを参考に新たな視点を持って自分の考えをまとめている。	グループ内での交流を通して、竹取物語のものの見方や考え方について、友達の考えを取り入れながら、自分の考えをまとめている。	発表を聞くときの視点を改めて提示しながら、発表を聞いて感じたことや分かったことだけでも記入させる。

(2) 本時の展開

段階	○学習活動・予想される生徒の反応	形態	◇指導上の留意点「資料」◆評価
導入 5	1 前時までの学習内容の確認 ○学習の見通しプリントを用いながら学習の見通しを持つ。	個人	◇学習の見通しプリントを活用して振り返る。
課題把握 5	2 本時の学習課題の設定 ○竹取物語の面白さを紹介する。	一斉	
	竹取物語の面白さを紹介しよう。		
展開 30	3 発表に向けたリハーサル ○グループ内発表に向けた、発表練習を行う。 ・発表メモやフリップを用いながら繰り返し、発表の練習を行う。	個人	◇机間指導をしながら、紹介に盛り込む内容や注意点について再度確認する。
	4 グループ内での発表 ○4人グループ内で、自分が発見した竹取物語の面白さを発表し、交流する。 ・グループ内で発表する ・友達の発表を聞いて学んだことや気づいたことをメモし、伝え合う。	集団	◆聞き手の反応も確かめながら面白さを紹介しようとしていたか。(関)
	5 発表から学んだことを振り返る ○友達の発表を聞いて学んだことをまとめる。	個人	「学習記録用紙」 ◆グループ内での交流を通して、竹取物語のものの見方や考え方について、友達の考えを取り入れながら、自分の考えをまとめていたか。(読)
まとめ 10	6 本単元のまとめ ○本時の学習内容も合わせ、単元全体の学習を振り返り、竹取物語のものの見方や考え方について、学んだことを学習記録用紙に記入する。	個人	「学習記録用紙」 ◇単元全体（本時）の課題に照らして、学習内容を振り返らせる。
	かぐや姫は単なるお姫様というイメージがありましたが、友達の発表を聞き、難題の内容を知れば知るほど、性格が悪いのではないかと思いました。自分が知っている竹取物語との違いが感じられて面白かったです。		